

道路8 国道55号の二次改築(徳島県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
徳島1	建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「徳島工事五十年史」(建設省四国地方建設局徳島工事事務所、1998年)、290頁	国道55号徳島南バイパス 昭和30年代からの高度経済成長と共に自動車交通は飛躍的に増大し、徳島市及びその周辺では著しい交通渋滞を生じるようになった。このような中、この対応策として国道55号では徳島南バイパスを昭和45年度に事業に着手した。 (中略)平成8年7月には全線完成供用した。 徳島南バイパスは阿南道路とともに、徳島県南部への利便性を高め、今後とも地域活性化の役割を担っていくことになる。
徳島17	牟岐町史編集委員会編「牟岐町史」(牟岐町、1976年)、809頁	国道五五号バイパス 交通の円滑化と災害防止の為国道五五号線でもバイパス対策が促進されていたが、本町に関しては昭和四十四年より工を起し、従来牟岐町中心街である本町西浦を通り抜けている国道に対し、中村本村はしよりから直角に右折し、昌寿寺山と大谷山の二か所にトンネルをつくり、内妻に抜け国道に合するコースで徒歩で二〇分以内、バスで七分以内で牟岐の中心と内妻とを結ぶことができ、昭和四十六年三月竣工した。(中略)辺川ー赤水バイパスこの間はカーブの状態悪く車の運行に支障が多かったため、辺川の北側を改修し道巾を拡げ迂回道路三角の底辺を直線にして、小松大師の下に出て小松橋を鉄橋に架替して方向を変え、赤水に出るコースであり昭和四十七年五月完成した。
徳島21	阿南市史編さん委員会編「阿南市史 第4巻」(阿南市、2007年)、348頁	国道五五号阿南バイパス (中略)小松島市大林町森ノ本から那賀川町を経て阿南市福井町古津にいたる約二キロメートルの区間が、五五線阿南道路(阿南バイパス)である。片側二車線、上下便四車線、阿南市内と羽ノ浦、那賀川町内などの交通緩和と県南地域の活性化を期した。
徳島28	羽ノ浦町誌編さん委員会編「羽ノ浦町誌 地域編」(羽ノ浦町、1994年)、44頁	国道五五号バイパス 昭和四十四年(一九六九)、宮倉～高田間に、旧羽ノ浦商店街の交通ラッシュを緩和するために五十五号線バイパスが開通した。バイパス開通とマンモス団地(春日野団地)の完成等によって、宮倉の国道沿線には大型量販店「スーパーコーワ」「スーパーキョーエイ」「ベターライフ」「ジャスト」その他、諸種の商店が進出、開店し、新しい商業地域が形成されている。
徳島42	徳島市史編さん室編「徳島市史 第三巻」(徳島市教育委員会、1983年)、465-466頁	国道五五号徳島南バイパス 徳島南バイパスは、かちどき橋一丁目から八万町大野・大松町を經由して、小松島市大林町で五五号に合流する延長一・九キロメートルの道路である。(中略)昭和四十五年工事に着手し、現在においては、かちどき橋・八万町大野間は四車線で、八万町大野・小松島市小松島町間が暫定的に二車線で、それぞれ供用されている。小松島市小松島町・同市大林町間は引続いて工事が進められている。既に供用を開始している区間においては、一日の交通量が二万四六〇〇台にも達して、五五号の交通渋滞の緩和に大きな役割を果たしている。

道路8 国道55号の二次改築(徳島県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
徳島203	建設省四国地方建設局編「一般国道55号徳島南バイパスについて」(平成11年度第3回事業評価監視委員会資料、2000年)、7-9頁	<p>国道55号徳島南バイパスの事業効果</p> <p>(1)所要時間の短縮 徳島県南部地方都市圏の中心都市である阿南市の橘港から神戸淡路鳴門自動車道鳴門ICまでの所要時間が2時間33分から2時間9分と24分の短縮が図られた。 徳島県南部地方都市圏の中心都市である阿南市から徳島空港までの所要時間が2時間7分から1時間43分と24分の短縮が図られた。</p> <p>(2)渋滞緩和 渋滞対策プログラムに位置づけのあった現道の赤石交差点と、小松島市役所前交差点の渋滞が緩和された。 現道の混雑度が全線供用前の最大混雑度2.39からH9センサスでは1.81と低減できた。 現道の旅行速度が全線供用前の最低速度13.5km/hからH9センサスでは25.7km/hと向上した。</p> <p>(3)安全性の確保 現道の交通事故件数が供用前の331件から189件と低減できた。 バイパスの整備により、歩道が100%設置され交通弱者の安全性の確保が図られた。</p> <p>(4)安心の確保 緊急輸送道路ネットワークの強化が図られた。</p> <p>事業による周辺状況等の変化 バイパスの供用とともにバイパス沿線の土地価格が上昇(資産価値の上昇)。 商業集積の誘導が図られた。</p>

道路8 国道55号の二次改築(徳島県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
徳島255	国土交通省四国地方整備局編「一般国道55号日和佐道路(事後評価)」(平成28年度第4回事業評価監視委員会資料、2016年)、5-10頁	<p>国道55号日和佐道路の事業効果</p> <p>(1)信頼性の高いネットワークの確保 国道55号現道には異常気象時の事前通行規制区間が存在しており、また多くの防災点検箇所が存在。 日和佐道路の開通により、幹線道路としての信頼性及び利用者の安心感が大幅に向上。</p> <p>(2)急カーブの解消による走行性、安全性の向上 日和佐道路の開通により、急カーブが連続する国道55号現道の交通事故発生件数が大幅に減少。 地域住民の日常生活や物流活動において、安全で安心して走行できる道路を確保。</p> <p>(3)安定した救急搬送を支援 海部郡から年間約200人が、小松島市などの3次救急医療機関に救急車で搬送されており、速達性・走行性の高い日和佐道路を利用することで、患者や救命士の負担が大幅に減少。 通行規制時においても、3次救急医療機関への搬送が可能に。</p> <p>(4)地域防災機能の向上を支援 日和佐道路の整備にあわせ緊急輸送進入路を整備し、災害や事故発生時の出入り口を確保。 津波等の発生時等に地域の方々が、緊急避難できるよう避難路を整備。</p> <p>事業による波及効果</p> <p>(1)地域医療・災害拠点の機能向上に貢献 日和佐病院と由岐病院を統合し、津波の被害を受けない日和佐道路の由岐IC付近の高台に美波病院がH28.31に開院。 日和佐道路を利用した救急輸送や通院が行われており、地域医療に貢献するとともに、災害時の拠点としての機能向上に貢献。</p> <p>(2)移住促進のための取組を支援 美波町では日和佐道路の開通やブロードバンド環境を活用した、サテライトオフィスの誘致活動に取り組んでいる。 日和佐道路が全線開通した翌年に第1号サテライトオフィスが進出(H28.9月時点で14社)、平成25年以降県外からの転入者数が転出者数を上回り人口が社会増。</p>